

熊本県文化財調査報告 第176集

立石遺跡 大鶴A遺跡 上揚遺跡 前畠遺跡

担い手育成基盤整備事業に伴う文化財調査

1999

熊本県教育委員会

序 文

今回発掘調査報告書を刊行しました立石遺跡・大鶴A遺跡・上揚遺跡・前畠遺跡は菊池郡大津町に所在します。大津町は古来より人々が生活を営み、悠久の流れを持つ白川はその文化を育んできました。

本書は平成5年度から8年度にかけて錦野地区担い手育成基盤整備事業（区画整理）に伴って発掘調査を実施した報告書です。調査の結果、縄文時代早期から歴史時代までの遺物・遺構が出土しました。特に白川流域南岸の弥生時代後期の資料は注目される内容で、出土した彩色土器は祭祀用と思われ、当時の人々の願いが偲ばれます。

今回の成果が学術的研究のみならず、県民の皆様を始め多くの方々に広く活用され、埋蔵文化財に対する関心と御理解を深めていただく一助となれば幸いに存じます。

最後に埋蔵文化財の発掘調査に御協力をいただいた県農政部・県菊池事務所耕地課・大津町役場・大津町教育委員会および地元の方々に対し、心より感謝申し上げます。

平成11年3月31日

熊本県教育長 佐々木 正典

例　　言

- 1 本書は、担い手育成基盤整備事業（大津町錦野地区）に伴い、平成5～8年にかけて発掘調査を行った立石遺跡・上揚遺跡・前畠遺跡・大鶴A遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。立石遺跡・上揚遺跡は菊池郡大津町大字錦野、前畠遺跡・大鶴A遺跡は大字外牧に所在する。
- 2 熊本県遺跡地図では錦野遺跡（遺跡番号 43403080）で表記してあるが、錦野遺跡に立石遺跡・上揚遺跡は包括されるため本書では各遺跡で区分し、関連遺跡等は熊本県遺跡地図番号で表記した。
- 3 整理作業は熊本県文化財収蔵庫で行い、遺構実測図については最小限を掲載するに止め、写真を中心編集をした。
- 4 現地での写真撮影は主として吉田正一、一部山下義満が行った。また遺物写真撮影は戸田清恵、製図・レイアウトは緒方千代子・井上美保・可児真由美・乗富祐子が行った。
- 5 本書の執筆は主として戸田、一部（第Ⅰ・Ⅱ章 第Ⅲ章 第4節）を山下が行い、編集は戸田が行った。

凡　　例

- 1 住居番号は各調査区を頭文字とし住居番号で表記した。IV区2号住居の場合、402住となる。
- 2 写真に掲載されている遺物の縮尺は実物大の約2分の1の場合、S=約1/

本文目次

序文

例言

凡例

第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査の概要 1

第Ⅱ章 各遺跡の位置と歴史的環境 3

第Ⅲ章 立石遺跡の調査

第1節 立石遺跡の位置と層位	7
第2節 繩文時代の遺構と遺物	7
第3節 弥生時代の遺構と遺物	13
第4節 配石遺構	24
第5節 まとめ	25

第Ⅳ章 大鶴A遺跡の調査

第1節 大鶴A遺跡の位置と層位	29
第2節 繩文時代の遺物	30
第3節 弥生時代の遺構と遺物	31
第4節 古墳時代の遺構と遺物	34
第5節 中世以降の遺構と遺物	37
第6節 まとめ	38

第Ⅴ章 上掲遺跡・前畠遺跡の調査

第1節 上掲遺跡	39
第2節 前畠遺跡	40

第VI章 総括 41

挿図目次

第 1 図 立石・上揚・前畠・大鶴 A 各遺跡の調査区位置図	2
第 2 図 周辺遺跡分布図	4
第 3 図 立石遺跡基本土層図	7
第 4 図 立石遺跡調査区位置図	8
第 5 図 立石遺跡縄文時代遺構配置図	9
第 6 図 1号～5号集石実測図	10
第 7 図 6号～10号集石実測図	11
第 8 図 立石遺跡弥生時代遺構配置図	13
第 9 図 301号住居跡実測図	14
第 10 図 302・304号住居跡実測図	15
第 11 図 401・403・404・405・406・407号住居跡実測図	16
第 12 図 408号住居跡・土器溜め実測図	17
第 13 図 配石遺構実測図	24
第 14 図 大鶴 A 遺跡基本土層図	29
第 15 図 大鶴 A 遺跡調査区位置図	29
第 16 図 大鶴 A 遺跡弥生時代遺構配置図	31
第 17 図 204・305・306号住居跡実測図	32
第 18 図 不明遺構実測図	33
第 19 図 大鶴 A 遺跡古墳時代遺構配置図	34
第 20 図 201・202・203・302号住居跡実測図	35
第 21 図 303・304号住居跡実測図	36
第 22 図 大鶴 A 遺跡中世以降の遺構配置図	37
第 23 図 上揚遺跡遺B区構配置図	39
第 24 図 前畠遺跡遺構配置図	40

表目次

第 1 表 周辺遺跡地名表	5
第 2 表 立石遺跡弥生土器出土量	41
第 3 表 出土遺物一覧	43

遺構写真目次

立石遺跡5号集石検出状況	10
立石遺跡301号住居跡完掘状況	14
立石遺跡土器溜め検出状況	17
立石遺跡航空写真（東上空より）	25
大鶴A遺跡306号住居跡遺物出土状況	32
大鶴A遺跡A区溝遺構完掘状況	37

第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査の概要

各遺跡は白川の南岸、沖積平野に位置する。この地区に担い手育成基盤整備事業（大津町錦野地区）の計画がなされたのは平成5年11月（農政部採択通知のことである。担い手育成基盤整備事業は機械化営農技術の発展等に即して、農地等の区画形質の変更等を行うことにより農業生産の向上を図り、併せて農業構造の改善に資することを目的とし、平成5年度新規採択当時は「錦野地区担い手育成基盤整備事業（区画整理）」であったが、平成9年度に圃場整備事業の再編がなされ「錦野地区県営圃場整備事業（担い手育成・区画整理）」となった。事業の受益地は74.3haで受益者数は171名に及ぶ。工事は平成5年12月に着工し平成12年度に完了予定である。

調査は工事対象地域内の試掘成果によって県文化課と県農政部・菊池事務所耕地課と協議を行い埋蔵文化財に影響のおよぶ範囲を確認し調査区を設定した。

各調査は重機による表土剥ぎの後、清掃を行った。実測図作成に供するための基準作りとして、国土座標によるセンター杭を基準とし10mグリッドを設定した。

最終年度の調査組織及び各遺跡の調査担当者、報告書担当者は下記のとおりである。

調査責任者	文化課長	桑山裕好
調査担当		
立石遺跡	文化財保護主事	山下義満
嘱託		吉田正一
嘱託		北原美和子
上掲遺跡	嘱託	吉田正一
前烟遺跡	嘱託	吉田正一
大鶴A遺跡	嘱託	吉田正一

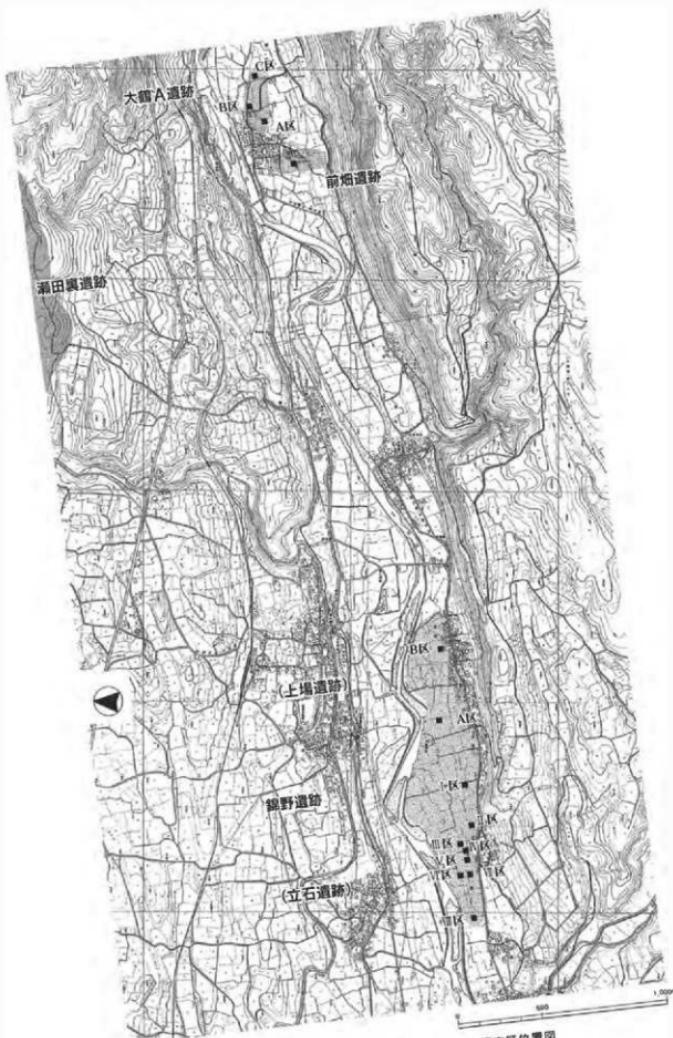
報告書責任者	文化課長	豊田貞二
報告書担当	文化財保護主事	山下義満
嘱託		戸田清恵
嘱託		井上美保

なお、報告書作成に際し、次の方々にご協力、ご助言を頂いた。

大久保浩二（鹿児島県埋蔵文化財センター）
木崎 康弘（熊本県文化企画課）
武末 純一（福岡大学）
中園 聰

各遺跡の調査期間と調査面積及び時代は以下の通りである。

立石遺跡	平成5年12月～6年3月	2,050m ²
上掲遺跡	縄文早期、弥生	
前烟遺跡	平成6年10月～7年3月	3,270m ²
大鶴A遺跡	縄文早期、古墳、奈良・平安	
	奈良・平安	
	平成7年4月～7年9月	2,000m ²
	奈良・平安	
	平成7年9月～8年2月	2,420m ²
	縄文前～後期、弥生、古墳、中世	



第1図 立石・上場・前畠・大鶴A各遺跡の調査区位置図

第Ⅱ章 各遺跡の位置と歴史的環境

阿蘇を源とする白川はやがて有明海に注ぎ、その流域距離は約63kmである。阿蘇の大爆発により周囲には現在の台地を形成し、北には合志川の支流矢護川と台地の南北の境界を形成するように白川は位置する。大津方面から阿蘇へは谷越えの二重（ふたえ）の峠と白川沿いの二つが近年まで交通ルートであった。従ってこの白川に存在する本報告の各遺跡のあり方が問われる。

各遺跡はこの白川沖積地帯に所在し、白川上流から、大鶴A遺跡・前畑遺跡・上掲遺跡・立石遺跡の順に立地する。

各遺跡を中心とする地域は多くの遺跡が発見されている。以下、時代ごとに白川周辺と大津町の代表的な遺跡の簡単な紹介を行いたい。番号は熊本県遺跡地図（熊本県教育委員会 平成10年3月31日発行）の遺跡番号である。

旧石器時代

先ず旧石器であるが、隣接する旭志村湯舟原遺跡（43402027）からナイフ型石器・三稜尖頭器が採集されている。また大津町無田原遺跡（43403006）からは、剥片と碎片が出土していることから、湯舟原遺跡を中心として大津町北部台地での今後の先土器時代の遺跡発見の可能性が指摘されている。

縄文時代

縄文時代、白川流域では内牧B遺跡（43403084）・外牧遺跡（43403085）・白川北部の瀬田裏地域一部と南部、白川支流の鳴子川沿い（西原村）に遺跡が点在するが、この時代は大津町にて最も充実する時期で、それは早期と後期～晩期に分かれる。

早期の代表的遺跡で配石遺構を検出した無田原遺跡（43403006）、注口を持つ壺型の押し型土器を出土した瀬田裏B遺跡（43403078）が知られている。これらは早期にこの地で集落が形成されたことを意

味し、後期～晩期にも同じように大津北部から旭志村～菊池南部にかけて大集落を形成し、様相が一変する。

ワクド石遺跡（43403002）・旭志村伊坂・上の原遺跡など規模が比較的大型である。これらの遺跡は土偶・玉類などを伴う例があり、その精神文化も充実する時期である。縄文期の傾向として早期に拠点集落的遺跡が存在し多様な遺構・遺物が確認されるが、前期から中期ではその前後の時期と比べて発見例は少なく、しかも大規模遺跡が少ないのが特徴である。

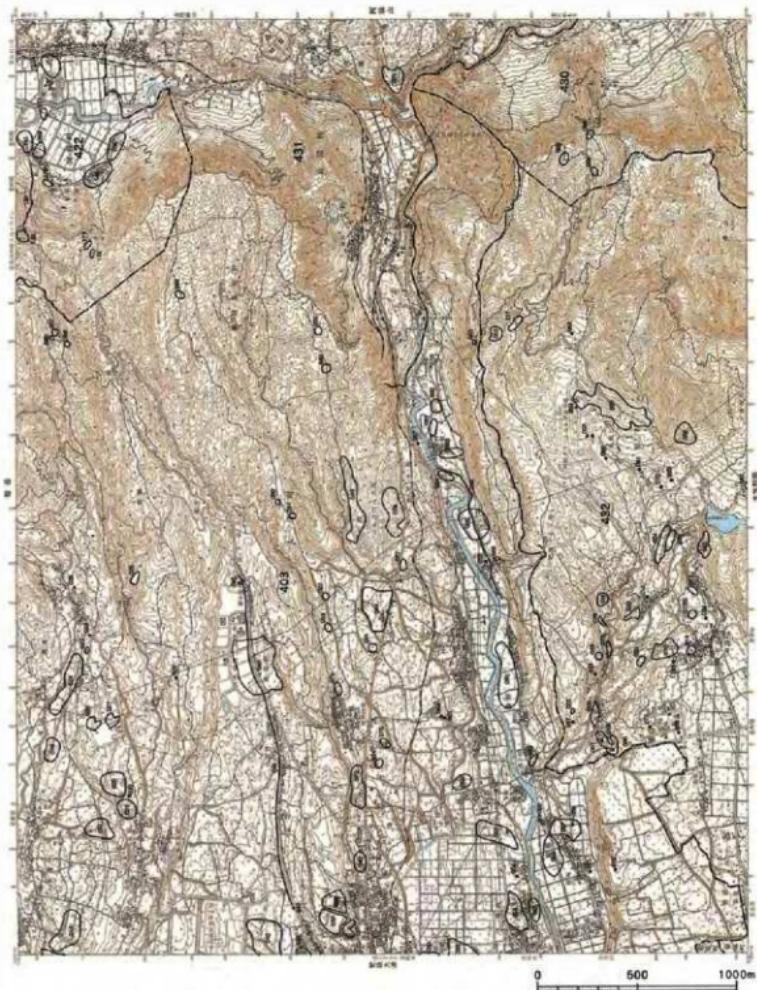
弥生時代以降

弥生期、現在確認されている遺跡から、外牧遺跡（43403085）・鳴子川遺跡（43403079）・岩坂遺跡（43403058）・上陣内遺跡（43403065）が本報告書遺跡付近の白川に沿い存在する。立石遺跡はこの時期の中期から後期にかけての集落地であり、菊陽町梅の木遺跡（43404019）から立石遺跡まで遺跡の集中がある。そしてもう一つの集中区が銅戈2本を出土した大松山遺跡（43403038）・後期には二重の環濠を巡らした集落、西弥渡免遺跡（43403035）などの北部に集落遺跡の増加が見られる。したがって弥生期には白川沿いと台地上に遺跡が存在する。

古墳時代には白川周辺に遺跡が見られず、近辺には集落として北部に瀬田裏遺跡（43403045）・瀬田雨留尾遺跡（43403044）と西原村鳴子川沿いに点在する。また古墳として矢護川流域・瀬田裏地域・大林地域などに円墳が確認または存在していたが、前方後円墳などの規模の大きな古墳は見られない。横穴墓として後追横穴群（43403037）や岩坂横穴（43403060）がある。

歴史時代になると旧石器が採集されている旭志村湯舟原遺跡(43402027)で石製帶金具が出土していることから官牧の存在を想定する意見がある。

熊本県内において近年、歴史時代の遺跡発掘例が増加の傾向にあるため、今後、大津町及び周辺での歴史時代の遺跡発見が期待される。



第2図 周辺遺跡分布図

藤木原(43) 大澤町(403)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
010-000001	西木	赤木	弥生	古墳地	野尻田古墳出土	
012-九万石切	矢作川 中在中	中曾	古墳地			
014-尾瀬2地点	矢作川 一ノ割	古墳	古墳地	古跡地		
017-ナギナタ	河原川 (通称ナギナタ)	南文	古墳地	古跡地	奈良文、御陵式、野辺田式	
020-水の山	矢作川 水の山	南文	古墳地	古跡地	奈良文、御陵式、野辺田式、支石墓	
021-平月遺跡	平月 川東	先秦・古代	古墳地			
022-真木古墳	真木 古墳	古墳	古墳	古墳	円墳	
023-今城原(真木原)	日本 球藻苔	中世	城	古墳	合志一基	
024-真木	日本	純文	古墳地	古墳地	純文本木、野辺田式圓墳	
025-高見社社跡	日本 西磐原	小字	古墳地	古墳地	合志一基	
027-中條遺跡	西條 中條遺跡	南文	古墳地	古墳地	野邊文、西の神式	
028-只見	先見原 白向	先秦	古墳地	古墳地	先生中野遺跡付近見出	
029-駒野尾遺跡	平川 駒野尾	中世	城	城		
030-恵庭城跡	平川 中曾	中世	城	城		
035-西野原遺跡	大津 西野原	先秦～古墳	古墳地			
037-後迫川河跡	大津 後迫	古墳	古墳	古墳	コの字型溝、廻転を示すあり	
038-大蛇山	大津 (通称大蛇山)	先秦	古墳地	古墳地	鶴丸出土	
039-大蛇山	大津 大蛇山	先秦	古墳地	古墳地	野辺田土器發掘、白羽野出土	
040-八重	大津 八重	近世～中世	交通			
041-玉里木原	大津 近代		交通			
043-51水	佐木 先生	先秦	古墳地	古墳地	コペスの西100m、先生東側	
044-西田原尾原	佐田 古代	古墳地	古墳地	守衛・(聚落)		
045-原田原尾原	原田 長野ほか	古墳・古墳	古墳地	古墳地		
046-日野野	高野 高野野	古墳	古墳地	古墳地	野辺田式土著分布	
047-六重木原	大津 近世	古墳	古墳	古墳		
048-道江公園	高野 付近	近世	古墳	古墳		
049-高野浜田古墳	高野 濱田	古墳	古墳地	古墳地	3-4基(石室のみ)、鉄土なし	
050-高野浜田遺跡	高野 浜田	古墳	古墳地	古墳地		
051-大津	大津 大津	古文	古墳地	古墳地	大石籠・石壁・土御門片小数、大津露喰グラウンド	
054-上原	袖内 上原	先秦～古代	古墳地	古墳地		
055-下原内	袖内 古原	古原	古墳地	古墳地	土御門市	
056-西宮寺跡	安坂 中世	寺社	寺社	寺社	宝可門、大型五輪塔片	
057-坂原	坂原 南文	南文	古墳地	古墳地	坪原文字盤	
058-室浦遺跡	中曾 室浦遺跡	先秦	古墳地	古墳地	坪原文字盤、共生	
059-島	島 港泊	南文	古墳地	古墳地	坪原式	
060-船形櫛削刀	島 (通称船形)	古文	古墳地	古墳地	坪原式	
061-大津の牛頭遺跡	吹田 牛頭	古文	古墳地	古墳地		
062-大津上原遺跡	吹田 上原	古文	古墳地	古墳地	中世城跡	
063-向原	吹田 (通称向原)	古文	古墳地	古墳地		
064-玉里遺跡	袖内 原田	中世	古墳地	古墳地	(聚落跡)	
065-外伏代古所	外伏	中世	城	城	(聚落跡)	
066-御前住山跡	外伏 近世	近世	遺跡物	遺跡物	石臼群、傾約2m高25cm	
067-1月北山入口	外伏 大森	近世	遺跡物	遺跡物		
068-高尾山城跡	外伏 四間	中世	城	城		
069-仙戸井戸石かづ	仙戸 仙戸	古文	古墳地	古墳地	新造古墳	
071-高尾山(カシラ)遺跡	高尾山 上原	古文	古墳地	古墳地		
072-新井遺跡	高尾山	古文	古墳地	古墳地		
073-牧田A	牧田	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
074-牧田B	牧田	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
075-牧田C	牧田	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
076-牧田D	牧田	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
077-豊田山	高尾山	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
078-高尾山B	高尾山	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
079-高尾子山	高尾山 仙子川	先秦・古墳	古墳地	古墳地	後河内塗	
080-高尾子山	高尾山 上原	南文～古文	古墳地	古墳地	坪原式	
081-大森A	大森	古文	古墳地	古墳地	坪原式	
082-大森B	大森 大森	古文	古墳地	古墳地	坪原式	
083-御前	御前 四間	南文・古代	古墳地	古墳地	内谷四間A	
084-内伏古所	外伏	南文	古墳地	古墳地		
085-外伏	外伏	南文・共生	漁場	漁場	漁場	
086-高田山C	高田山	南文	古墳地	古墳地	土器	
087-高田山D	高田山	南文	古墳地	古墳地	鉄片	
088-高田山E	高田山	南文	古墳地	古墳地	鉄片	
089-高田山F	高田山	南文	古墳地	古墳地	土器	
091-御前遺跡	御前	南文・古代	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
092-御前遺跡	御前	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
093-御前山C	御前山	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
094-御前E	御前	南文	古墳地	古墳地	土器片、石壁など	
095-中井手	中井手	古代	古墳地	古墳地		

藤木原(43) 阿蘇町(422)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
098-高尾木	赤木	後世～中世	古墳地			
138-三輪山の古墳群	赤木 下ノ原	付近	古墳	古墳	町・東海の都・伊勢文化石碑	
139-二曲跡	赤木	旧石器	古墳地	古墳地		
141-上無田	無田 沼澤	南文・野生	古墳地	古墳地	笠原・石碑	
146-東原	東原 村下	南文～中世	古墳地	古墳地		
173-二曲跡A	東原	旧石器	古墳地	古墳地	切り出し石ナイフ、石器、刷毛	
174-二曲跡B	東原	南文	古墳地	古墳地	南文土器	
268-井口川	井口	南文	古墳地	古墳地	一ノ井遺跡	
270-高ノ子原	高ノ子原	南文	古墳地	古墳地	土師器 (SC-GC)	
271-道原	道原	古文	古墳地	古墳地	土師器・漆器	

藤木原(43) 阿蘇町(432)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
006-小原	舟子 舟子島	南文～古代	古墳地	古墳地	石器、漆器	
007-道元	舟子 道元	南文	古墳地	古墳地	南文灰陶土器・石器	
008-高湯	舟子 高湯	古文	古墳地	古墳地	漆器	
009-高湯の平	舟子 高湯の平	南文・野生	古墳地	古墳地	南文灰陶土器・野生土器・土師器	

第1表 周辺遺跡地名表

010 桐の木原	鳥子 桐の木原	純文	包蔵地	鶴文早・晚期土器、土師器
011 かぐ純	鳥子 純	弥生	包蔵地	弥生後期土器
012 くわづな後古墳群	小森 畠田遺跡	古墳	古墳地	古墳
013 佐間	鳥子 佐間	純文	包蔵地	弥生後期土器
014 古間	鳥子 古間	純文	包蔵地	鶴文早・晚期土器、古墳
015 里日	鳥子 上里日	純文・弥生	包蔵地	鶴文早中期・弥生後期土器、土師器
016 里日櫻穴	鳥子 里日谷	古墳	古墳	
017 里日櫻田櫻穴	鳥子 下六反田	古墳	古墳	
018 里日光の宝器出土地	鳥子 第六反田	近世	包蔵地	鶴器12点、肥前陶
019 烏子城跡	鳥子 陣ノ上	中世	城	中世城跡
020 里日向	鳥子 古向	純文	包蔵地	
021 里日海の上	鳥子 海ノ上	純文	包蔵地	
022 里日海の下	鳥子 下六反田	中世	石器場・村	
023 里日烏子城穴跡	鳥子 水の行	古墳	古墳	
024 きつね石燈籠	鳥子 鳥當置	古墳	埋葬	
025 烏子古墳群	鳥子 亀體	純文・古墳	包蔵地	鶴文・弥生・古墳期土器出土
026 烏子古墳群の口(鳥子古生サゾ)	鳥子 亀體	純文・弥生	包蔵地	鶴文・弥生
027 里日	鳥子 亀體	弥生	包蔵地	弥生土器・土師器・漆器
028 里日土塙	鳥子 日南丘	純文・古代	包蔵地	
029 里日土塙	鳥子 亀體土塙	純文・弥生	包蔵地	鶴文・弥生土器・土師器
030 里日土塙	鳥子 亀體	純文・古代	包蔵地	
031 里日城	鳥子 里日子	中世	城	中世城跡
034 里日	鳥子 里日	純文・古墳	包蔵地	鶴文早期・弥生後期・土師器
035 どぐ座の上	鳥子 大切原	弥生	包蔵地	弥生後期土器・土師器・漆器
036 うさぎ	鳥子 土塙	弥生	包蔵地	弥生後期土器
037 里野	鳥子 円ノ裏	純文・弥生	包蔵地	鶴文前期・弥生土器
039 岩が池	鳥子 亀體	弥生	包蔵地	弥生後期土器・土師器・漆器
070 岩が池西側台地	鳥子 亀體	純文・弥生	包蔵地	鶴文後期・弥生後期土器
071 里ノ原	鳥子 大切原裏	純文・中世	包蔵地	
076 里野	鳥子	純文・中世	包蔵地	
077 里野原上の原	鳥子	純文・中世	包蔵地	
078 里野原	鳥子	純文・中世	包蔵地	
117 猿ノ塚	鳥子	近石器・鶴文	包蔵地	土器片・刷片・石核採集

熊本県 (43) 阿蘇町 (431)

道路番号	道路名	所在地	時代	種別	備考
027 桜木	河原	桜木	純文	包蔵地	

熊本県 (43) 阿蘇町 (430)

道路番号	道路名	所在地	時代	種別	備考
055 篠ノ原B	河原	白石器・純文	包蔵地		
056 篠ノ原C	河原	白石器・純文	包蔵地		
067 篠ノ原D	河原	白石器・純文	包蔵地		

第1表 周辺遺跡地名表(つづき)



立石遺跡 発掘調査風景

第Ⅲ章 立石遺跡の調査

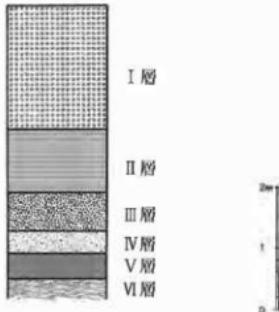
第1節 立石遺跡の位置と層位

位置（第2図）

立石遺跡は大津町大字錦野に所在し、阿蘇盆地に源を発する白川と北向山からのびる急崖との間の幅の狭い沖積地上に位置する。標高は遺跡の東端で約120m、西端においては約110mで東から西に緩やかに傾斜している。調査区は西から順にI区からⅥ区まで設定された。

層位（第3図）

- I層 灰褐色土 耕作土である。最も厚いところで1.8mに達する。
- II層 褐色土 アカホヤ火山灰の二次堆積土で、弥生時代の遺物を包含し、当時刻の遺構が検出される。厚さは20~50cmである。
- III層 黒褐色土 繩文時代早期の遺物が包含される。この層の上面で当時刻の集石が検出される。
- IV層 淡褐色土 粘性を帯びている。無遺物層である。
- V層 暗褐色土 粘性を帯びている。無遺物層である。
- VI層 黄褐色土 粘性を帯びている。無遺物層である。



第3図 立石遺跡 基本土層図

第2節 繩文時代の遺構と遺物

縩文時代の遺構は、Ⅵ区から集石10基が検出された。いずれもⅢ層からの検出で、遺構配置図に見られるように集石は南北両方向に広がると思われる。遺構の周囲からは、縩文早期の山形文・梢円文・格子目文の押型文土器、瘤付の無文土器、条痕文土器などが出土している。また、包含層からは撫糸文土器・縩文土器がわずかに出土している。以下集石について詳細に記述する。

1号集石（第6図）

1.6×1.0mの範囲に広がる。中央に大きめの石があり、周囲には拳大の破碎礫が約30個ほど散在している。掘り込みは確認されていない。集石の周囲からは梢円文・山形文の押型文土器、無文土器の脣部片が出土している。

2号集石（第6図）

1.3×1.0mの範囲に広がる。中央に30cm前後の大きめの石が2個あり、周囲には20cm前後の扁平な礫を中心に集石している。掘り込みは確認されていない。周囲からは、山形の押型文土器、無文土器の脣部片、縩文の圧痕が数条のこる底部が出土している。

3号集石（第6図）

1.2×1.2mの範囲に広がる。石は散在し、その間に土器が混じる。掘り込みは確認されていない。破碎礫が多く、集石の中及び周囲からは山形文・梢円文の押型文土器、無文土器などが出土している。

4号集石（第6図）

1.4×1.3mの範囲に広がる。石は散在し、間に土器片が混じる。掘り込みは確認されていない。集石の中及び周囲からは山形文・梢円文の押型文、瘤付の無文土器、条痕文土器が出土している。

第1節 立石遺跡の位置と層位



第4図 立石遺跡 調査区位置図

5号集石（第6図・5号集石 検出状況写真）

$1.1 \times 1.0\text{m}$ の範囲に、30cm前後の大きめの石が花弁状に配されている。集石群のなかでこのような形態は唯一であり、掘り込みは確認されていないが断面の石のあり方などから浅い掘り込みの中に花弁状に配置されていたものと思われる。周囲より山形文の押型文土器、無いる。

6号集石（第7図）

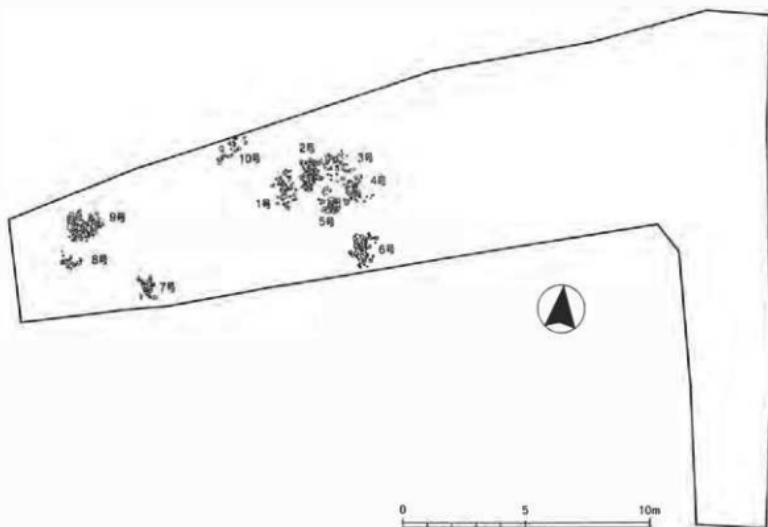
$1.8 \times 1.1\text{m}$ の範囲に広がる。集石の北端に40cm前後の大きな扁平な石がある。全体的に扁平な石が多く、集石間に土器が混じる。掘り込みは確認されていない。山形文の押型文土器の底部、条痕文土器の脇部片など3点の土器が周囲より出土している。

7号集石（第7図）

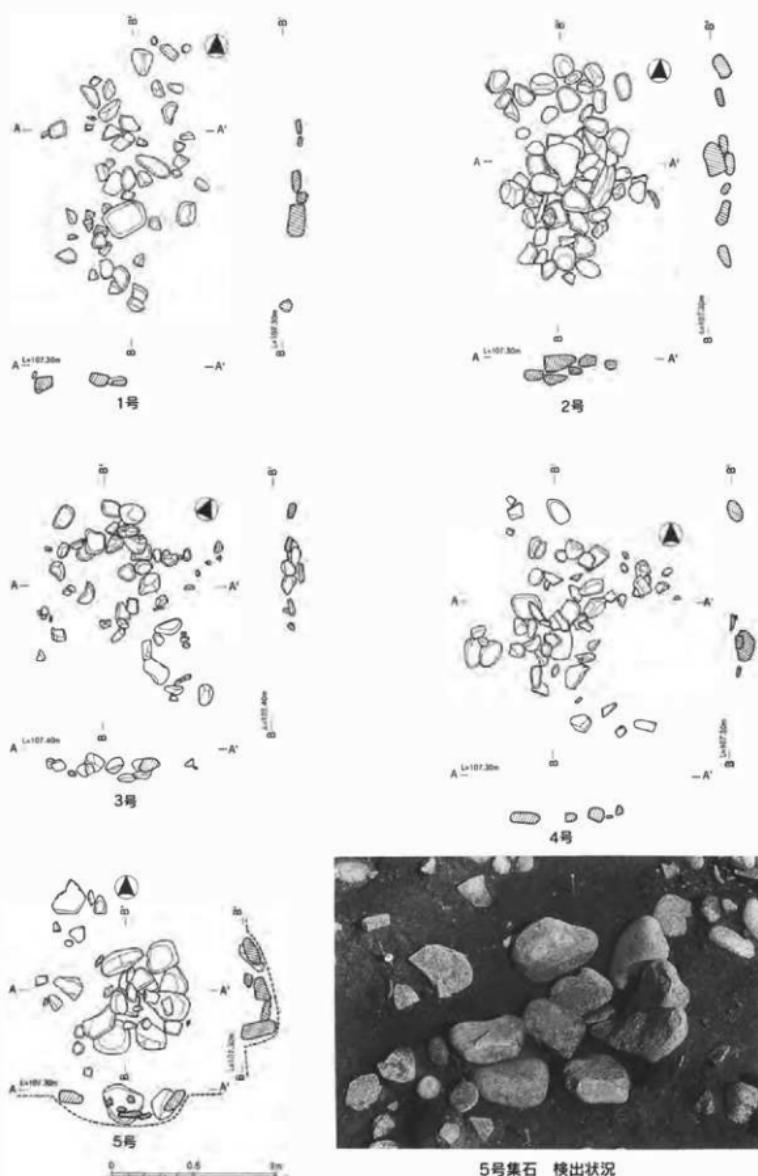
$1.1 \times 0.9\text{m}$ の範囲に広がる。10cm前後の扁平な石材が多い。器の脇部片が1点出土している。



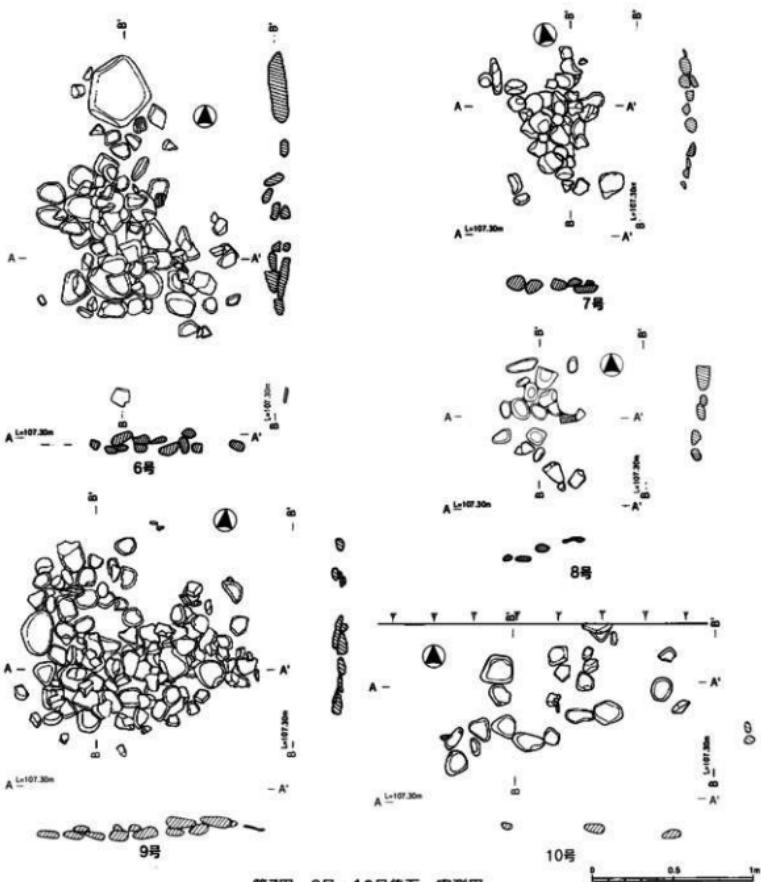
VI区 航空写真



第5図 立石遺跡 縄文時代遺構配置図



第6図 1号～5号集石 実測図



第7図 6号～10号集石 実測図

8号集石（第7図）

0.7×0.9mの範囲に数個の石が散在している。

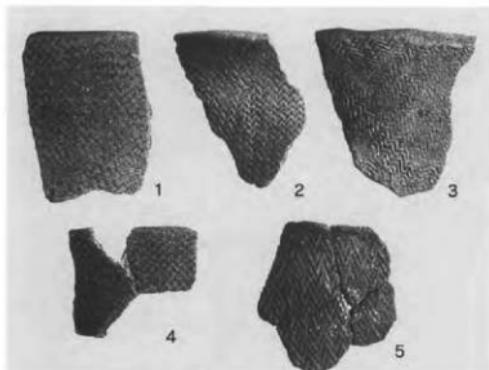
れた石の可能性がある。集石の中及び周囲から押型文土器・無文土器などが出土している。

9号集石（第7図）

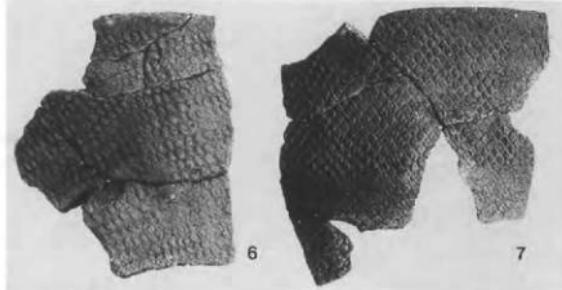
1.6×1.3mの範囲に広がる。集石の西側に25cm前後の扁平な大きめの石があり、周囲に15cm前後の扁平な石が集石する。掘り込みは確認されていない。集石の北東部には空白の部分があり、抜き取られた跡と考えられる。遺構配置図からもわかるように「8号集石」は9号集石に近接しており、この抜き取ら

10号集石（第7図）

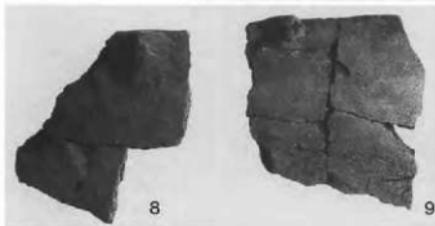
集石の北側は調査区外に延びており、広がる範囲は不明である。石は散在しており、掘り込みも確認されていない。



押型文土器(山形文)



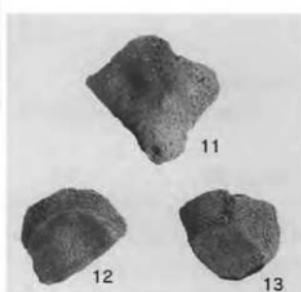
押型文土器(精円文)



無文土器



条痕文土器



押型文土器 底部

縦文時代早期 集石および包含層出土の土器 S=約1/3

第3節 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、遺構配置図に見られるようにⅢ、Ⅳ区から検出された。その内容は、竪穴式住居跡が10軒、土器窯め1基で、10軒の竪穴式住居跡のうち3軒は切り合った状態で検出された。いずれも弥生時代後期のもので、Ⅱ層から検出された。また遺物はⅢ、Ⅳ区以外の調査区からも見つかっている。の中には遺構にともなう時期（弥生時代後期）以外にも、弥生時代中期の遺物も含まれる。以下検出された遺構ごとに詳細を記述する。

301号住居跡（第9図）

住居跡の東側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する軸の長さは4.40m、遺構検出面からの深さは約40cmを測る。床の中央部には炉があり、その炉を挟んで2本の主柱があったと考えられる。住居跡の西側と南側には床面より約10cmのところにベッド状遺構がある。また、炉の東側には焼土が広がり、炭化材も見られることから焼火家屋の可能性が高い。

出土遺物

床およびベッド状遺構の直上より変形土器が2個出土している。いずれも外器面にはタタキ目が見られハケメとナデ調整が施され、内器面にはハケメとナデ調整が施されている。いずれも底部を欠き、その欠損部の割れ口から内器面にかけてススの付着が認められる。

302号住居跡（第10図）

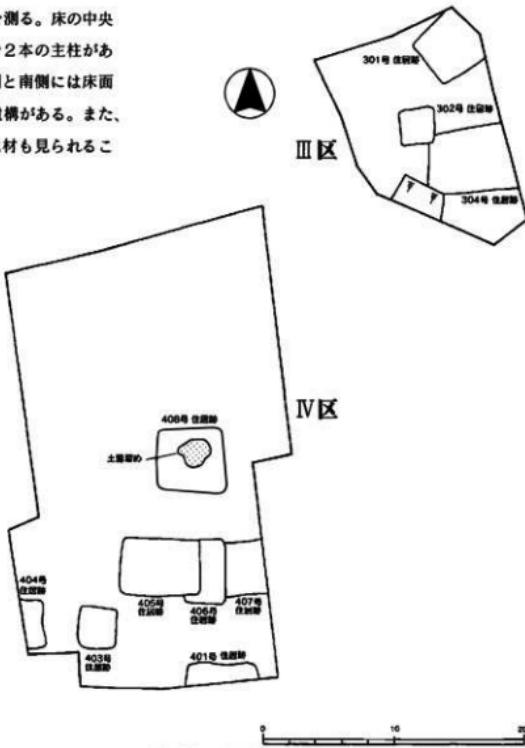
304号住居跡の北西部を切る形で検出されている。平面形態は長方形で、長軸3.00m、短軸2.68m、遺構検出面からの深さは約40cmを測る。柱穴は検出されていない。床より粉状の骨片が出土している。

出土遺物

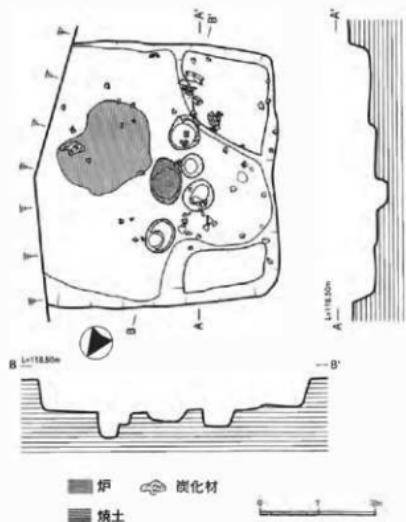
遺物の量は少ない。弥生土器の小片が数点出土している。

304号住居跡（第10図）

住居跡の東側が調査区外に延び、さらに東側は302号住居跡に切られている。平面形態は長方形を



第8図 立石遺跡 弥生時代遺構配置図



第9図 301号住居跡 実測図

呈し、長軸は5.88m以上、短軸は4.72mで遺構検出面からの深さは約40cmを測る。床の中央部には炉があり、長軸、短軸それぞれの軸方向に沿って柱穴がある。

出土遺物

床面直上からの出土遺物はないが、埋土中より銅鏡が出土している。また、断面形状が三角形を呈する複合口縁壺の口縁部、流水文が施された壺の肩部、くの字に屈曲する菱形土器の口縁部などが出土している。

401住居跡（第11図）

住居跡の南側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。調査時は2軒の住居跡の切り合いと考えられていたが、土層断面の状況より、浅い住居跡とされていたものは、ベッド状遺構と思われる。残存する軸の長さは5.52mで、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。

出土遺物

埋土中の遺物は他の住居跡に比べ少なく、弥生土器の小片がほとんどである。



301号 住居跡 完掘状況



14



15

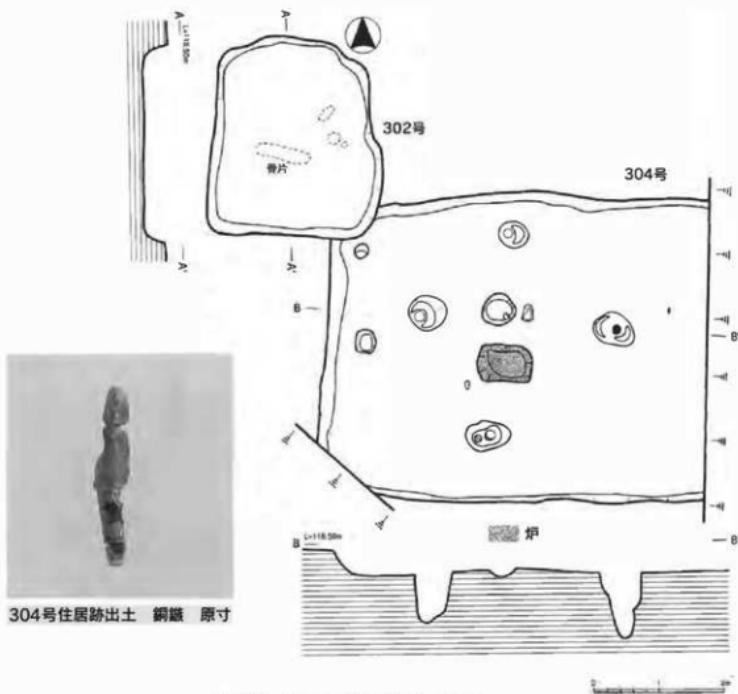
301号住居跡出土 菱形土器 S=約1/8

403号住居跡（第11図）

平面形態は正方形で、長軸3.08m、短軸3.00m。遺構検出面からの深さは約18cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態などから住居跡とした。

出土遺物

出土量は少なく、流水文が施された壺の肩部の小片など、数点が出土しているのみである。



第10図 302・304号住居跡 実測図

404号住居跡（第11図）

住居跡の南側と西側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する個の軸の長さは3.72mを測り、遺構検出面からの深さは約15cmを測る。床より約5cmのところにベッド状遺構がある。出土遺物

タタキ目が見られ、ハケメとナデ調整が施された變形上器の口縁部、胴部片が出土している。

405・406・407号住居跡（第11図）

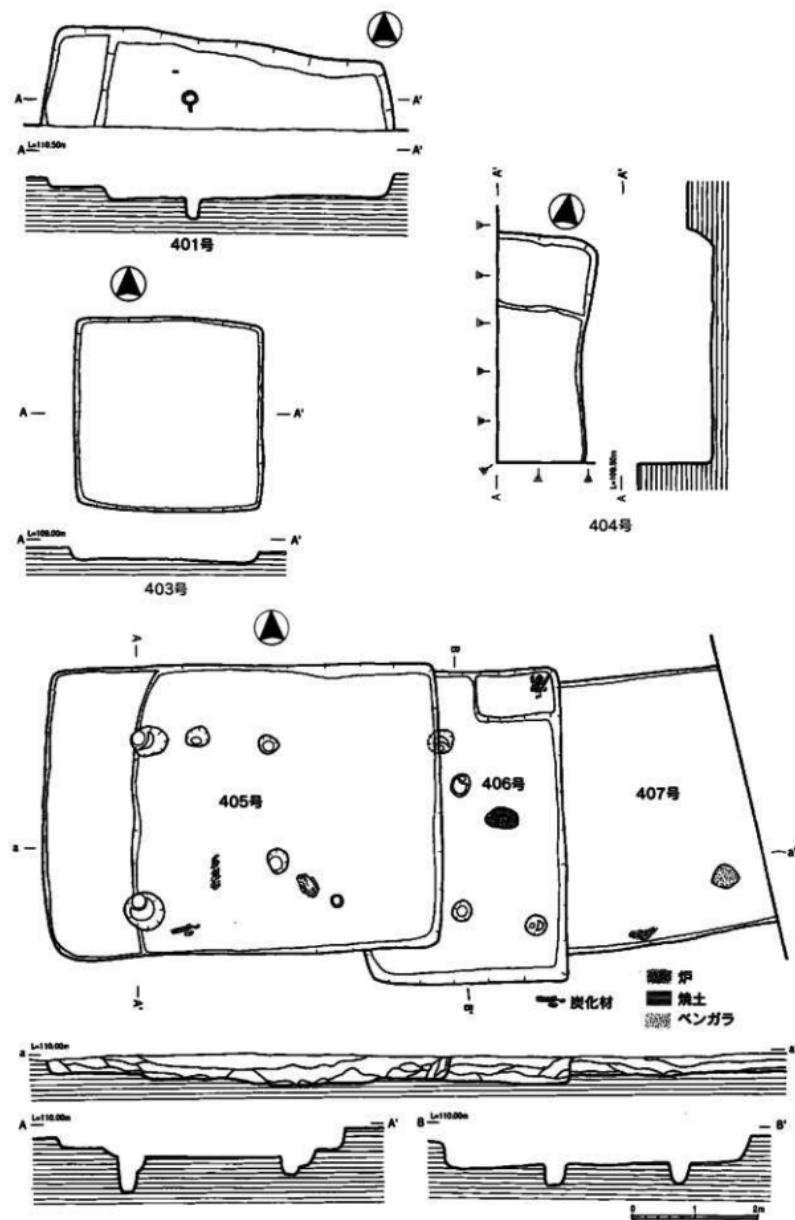
3軒が切り合った状態で検出されている。上層断面より、新旧関係は古い順に407→406→405号住居跡である。

405号住居跡の平面形態は長方形である。長軸は6.36m、短軸は4.60mで、主柱は4本と考えられる。

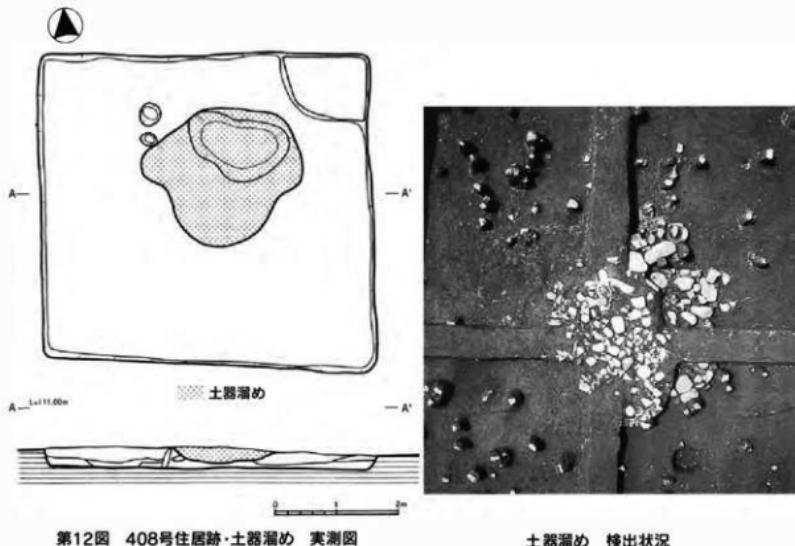
床より約15cmのところにはベッド状遺構がある。また、炭化材が3カ所で検出されている。

406号住居跡の平面形態も長方形を呈する。長軸の長さは4.96mで、主柱は長軸の方向に沿った2本と考えられる。主柱穴の方向から少しずれたところに炉があり、焼土が充填している状態で検出された。また、住居の北東部には床より約15cmのところに約1.2m×0.7mのベッド状遺構があり、その直上より炭化材が検出されている。

407号住居跡は西側を406号住居跡に切られ、東側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する個の軸の長さは4.32mで、床より焼土、ベンガラが検出されている。柱穴は見つかっていない。



第11図 401-403-404-405-406-407号住居跡 実測図



第12図 408号住居跡・土器溜め 実測図

土器溜め 検出状況

出土遺物

切り合う3軒の住居跡のうち、最も出土量が多いのは405号住居跡で、タタキ目が見られ、ハケメ、ナデ調整が施された壺形土器の口縁部から胴部にかけて、また高環の脚部などが出土している。

408号住居跡（第12図）

平面形態はほぼ正方形で、長軸5.32m、短軸4.92mを測り、遺構検出面からの深さは約25cmである。住居の北東部には径約0.65mの半円形のベッド状遺構がある。柱穴は2個検出されている。

出土遺物

出土量

土器溜め（第12図）

長軸1.28m、短軸1.08mの土坑内から土器や石器などが出土した。上層断面からは408号住居跡が廃絶した後、覆土上で竪穴が覆われたのち、土坑が掘られ、そこに廃棄されたものと解釈できる。

出土遺物

総個体数は約130個体以上にのぼる。器種別では、壺形土器が約100個体、壺形上器が約30個体、高環2個体、器台5個体などとなっている。

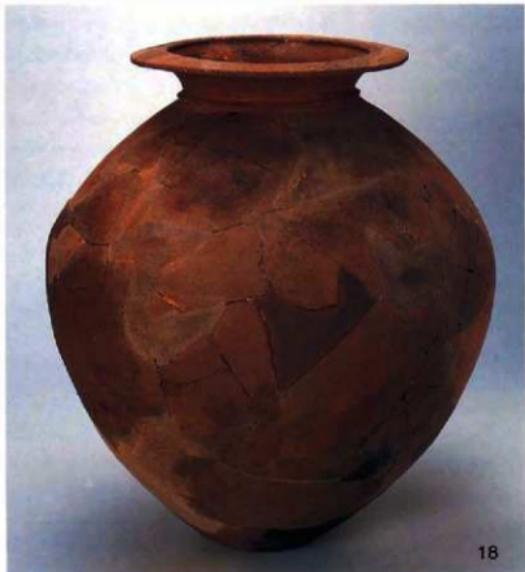
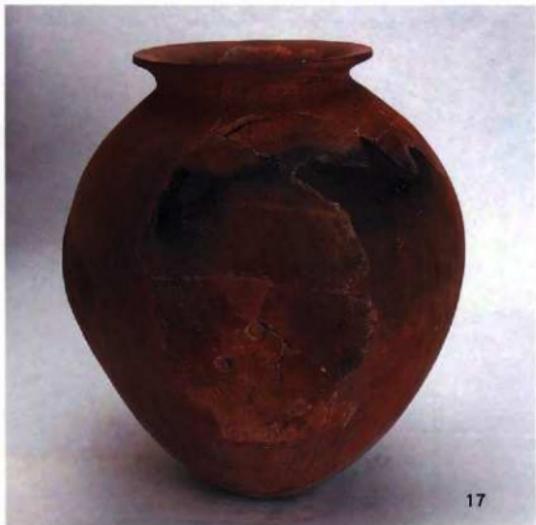
壺形土器は完全に復元可能なものが殆どないが、口縁部、底部の大きさなどから大型、中型、小型の3種類に分けられようである。また、口縁部、底部の個体数に比して胴部の破片が少ない。

壺形上器は丹塗りの袋状口縁長頸壺をはじめとして、様々な器種が出土している。

以下に、復元できた出土遺物のうち、主なものを掲載する。

立石遺跡IV区土器溜め出土遺物

大型の壺はこのほかNo20
(19ページ) の3点が出
土している。



壺形土器 S=約1/5

立石遺跡Ⅳ区土器澱め出土遺物



19



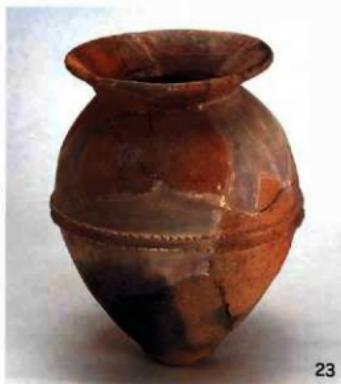
20



21



22



23



24

壺形土器 S=約1/5

立石遺跡IV区土器窯め出土遺物



25



26



27

立石遺跡全体では70点にのぼる
丹塗り土器の破片が出土している。

壺形土器（丹塗り） S=約1/3

立石遺跡IV区土器溜め出土遺物



28



29



30



31



32

壺形土器 S=約1/3

立石遺跡IV区土器窯め出土遺物



33

高坏 S=約1/3



34

35

36

器台 S=約1/3



37

38

立石遺跡IV区土器溜め出土遺物

壺形土器 S=約1/5



39



40



41

※スケールは不統一

石器 S=約1/2

石器はこのほか、敲石・台石・くぼみ石など30点あまりが出土している。



42



43



44

磨石（丹付着）

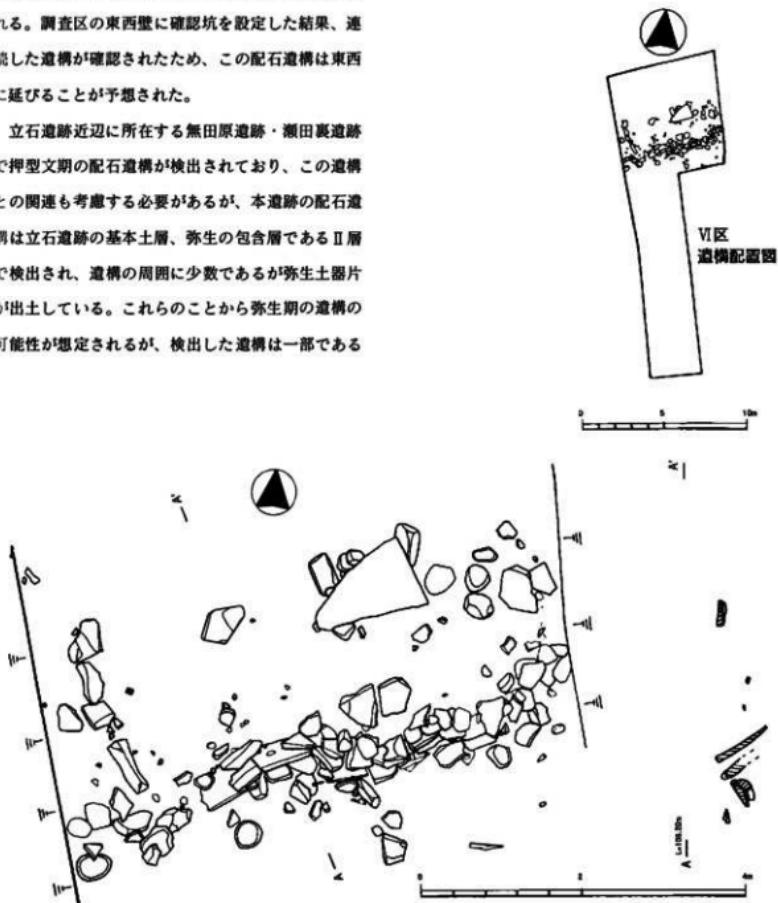
石斧

第4節 配石遺構（第13図）

配石遺構は18m×6mの南北に細長い調査区、IV区の中央よりやや北側にて検出された。遺構は東西軸と南北軸に延び、全体はT字型を呈している。東西軸に集中している板状石は南方向に傾斜した状況であったが、本来は直立した板状石が2列に配置され、板状石を固定するように円石を配置したものと思われる。調査区の東西壁に確認坑を設定した結果、連続した遺構が確認されたため、この配石遺構は東西に延びることが予想された。

立石遺跡近辺に所在する無田原遺跡・瀬田裏遺跡で押型文期の配石遺構が検出されており、この遺構との関連も考慮する必要があるが、本遺跡の配石遺構は立石遺跡の基本土層、弥生の包含層であるII層で検出され、遺構の周囲に少數であるが弥生土器片が出土している。これらのことから弥生期の遺構の可能性が想定されるが、検出した遺構は一部である

ため、この遺構の性格については不明な点が多く、その全体像については今後の類例を待つこととしたい。



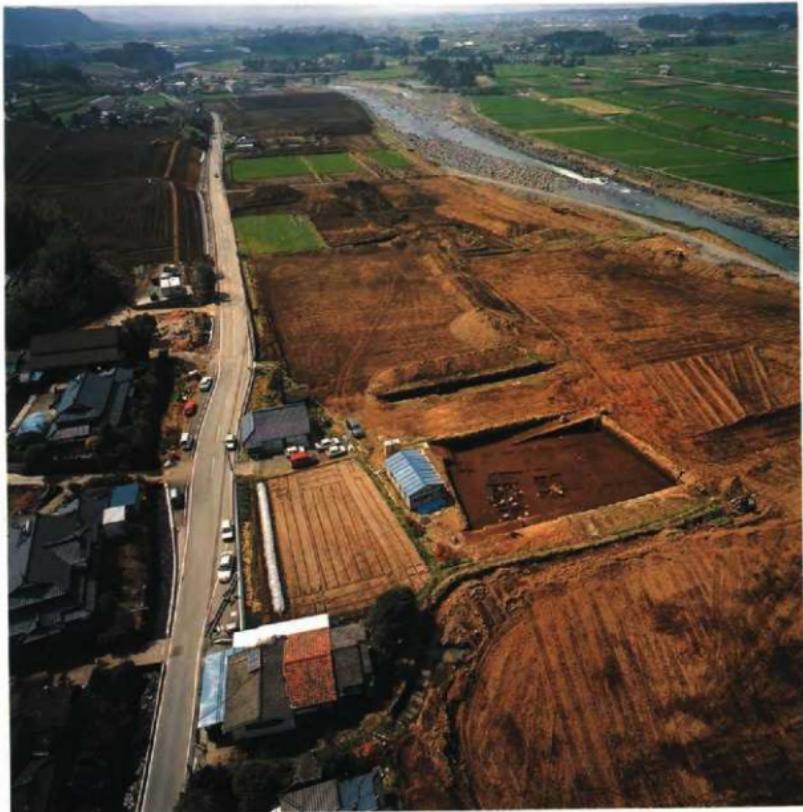
第13図 配石遺構 実測図

第5節　まとめ

白川南岸の沖積地上に位置する立石遺跡では縄文時代早期から弥生時代までの遺構・遺物が出土した。特にこの遺跡で遺構の数、遺物の量が最も豊富なのは弥生時代後期でⅠ区～Ⅳ区までの全調査区から遺物が出土している。特に遺構が検出されているⅢ・Ⅳ区、隣接するⅤ区からは大量の土器が出土している。中でも、Ⅳ区に位置する土器溜めからは130個体以

上の土器と石器が検出された。最も上層から丹塗りの壺が出土していることからも祭祀的な意味を持つ遺構である可能性が想定される。また、Ⅲ区の304号住居跡の埋土中からは銅鏡が出土しており、これらのことからもこの地域の拠点となるような集落が存在していた可能性が高い。

以下、時代ごとに簡単にまとめたい。



立石遺跡航空写真　(東上空より)

縄文時代

早期

【遺構】縄文時代早期の遺構はVI区にて集石10基が検出された。集石群は調査区外に広がることが考えられ、直徑が1m前後の範囲を持つものがほとんどである。検出時に掘り込みが確認されていたものはなかったが、5号集石については断面の様子から掘り込みを持っていたものと考えられ、また花弁状に人頭大の角礫を配しており、典型的な石組み炉の形態である。

【遺物】

土器 押型文土器が約7割の割合で出土し、そのほか無文土器、条痕文土器などが集石の周囲から出土している。また、包含層出土の土器も集石の周囲の出土状況と同様の傾向が見られるが、そのほかに撚糸文土器や繩文土器が出土しており、その中には肩部に屈曲部を持ち、撚糸文が施文された手向山式土器が1点出土している。

石器 集石の周囲および包含層より石鎌、石斧などが出土している。

弥生時代

中期

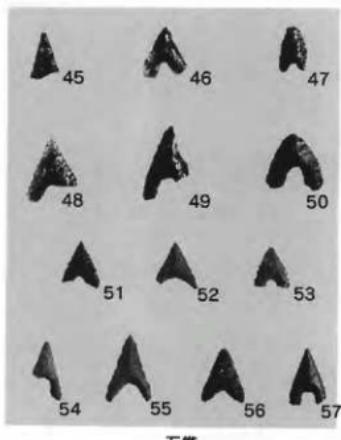
【遺物】中期の遺構は検出されていないが、遺物は各調査区より検出されている。T字形口縁をもつ黒

斐式土器などが出土している。

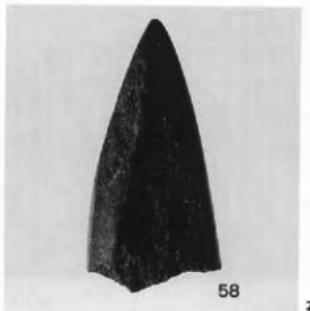
弥生時代

後期

【遺構】住居跡10軒、土器溜め1基が検出された。住居跡は2本柱で、ベッド状遺構をもつものもある。出土状況が最も良好な301号住居跡と土器溜めから出土の土器（斐形土器をもとに）、また3軒の切り合いで基準に住居跡の新旧関係を考えると、次頁のような図式になる。



石鎌



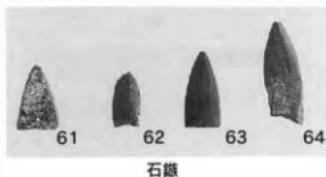
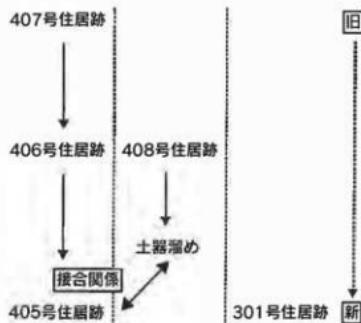
石斧



59

60

立石遺跡出土 石器 S=約1/2



石鏃

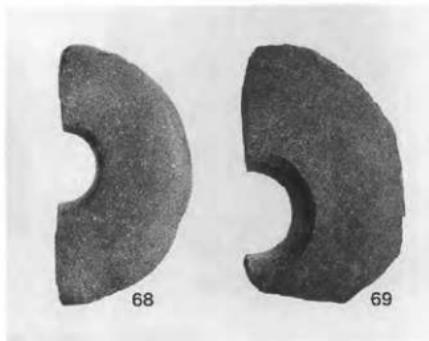


石包丁

有溝石器



砥石



環状石斧

立石遺跡出土 石器 S=約1/2

土器溜め出土の土器のうち405号住居跡下層出土の上器と接合するものが5点前後あり、土器溜めの土器の層位が不明であるため確実ではないが、おそらく土器溜め上層の土器が405号住居跡に流れ込んだものと考えられる。

【遺物】

土器 I区～Ⅴ区にかけての遺構の埋土中や包含層から出土している。特に土器溜めからは壺形土器、壺形土器、高壺、器台がセットで出土しており、同時期におけるセット関係を知ることのできる良好な資料である。形態での比較ができる壺形土器についてみると、土器溜めからは、くの字に屈曲する口縁を持ち、ハケメとナデ調整が施されたもの（遺物No39・40）が出土し、301号住居跡からは、口縁部端部をつまみ上げタタキ目がのこりハケメとナデ調整が施されたもの（No14・15）が出土しており、形態から前者が後期前半頃、後者は後期後半頃に比定され、大きくはこの2つの時期に遺構が形成されていたと考えられる。

石器 石鏃（No61～64）、石包丁（No65）、有溝石器（No66）、砥石（No67）、環状石斧（No68・69）などが出土している。

鉄器 手鎌（No70・71）、鎗（No72～74）、鍬（No75～77）が出土している。立石遺跡全体では器種不明を含めると40数点にのぼる。



手鎌



71



72



73



74

鎌



78



75



76



77

立石遺跡出土 鉄製品 S=約1/2



79



80

立石遺跡 I・V区出土 遺物 S=約1/4

第IV章 大鶴A遺跡の調査

第1節 大鶴A遺跡の位置と層位

位置（第15図）

大鶴A遺跡は大津町大字外牧に在し、その中でも最も東に位置する。標高は170m前後で東から西に緩やかに傾斜している。

調査はA・B・C区の3ヶ所で行われ、縄文時代前期から中世までの遺構と遺物が見つかっている。

層位（第14図）

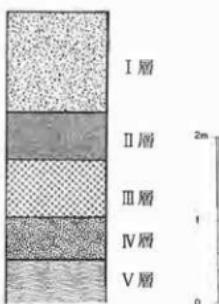
I層 灰褐色土 耕作土である。

II層 黒褐色土 中世以降の遺物包含層である。

III層 褐色土 アカホヤの二次堆積土で、弥生時代の包含層および構造検出面である。

IV層 黒色土

V層 ローム 軽石が混じる。



第14図 大鶴A遺跡 基本土層図



第15図 大鶴A遺跡 調査区位置図

第2節 縄文時代の遺物

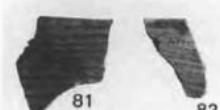
大鶴A遺跡では、C区において縄文時代前期～後・晩期の遺物が出土している。前期～中期にかけての遺物はC区中央部と北西部の2ヶ所から集中して出土しているが、構造は確認されていない。最も多く出土しているのは曾畠式土器で、口縁部が外反し、文様体の区画が明瞭でないタイプのものが多く見られる。器面の調整は丁寧なナデが施され、胎土に滑石が混入されているものもある。また、その他にも地文に貝殻条痕を施し、細隆起帯文を貼り付けた轟B式土器、熊本県天水町所在の尾田貝塚出土の土器群を標式とする尾田式土器、地文に条痕を施し、細い綾衫状の沈線を施した轟CD式土器、瀬戸内地方で中期に隆盛する船元式土器など前期から中期初めにかけての土器が多数出土している。



船元式土器



尾田式土器



轟B式土器



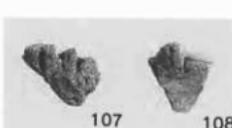
曾畠式土器



轟CD式、その他の土器



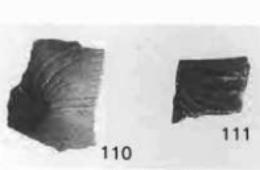
大鶴A遺跡 縄文前期～中期 出土土器 S=約1/4



北久根山式土器



鐘ヶ崎式土器



滋賀里式土器

大鶴A遺跡 縄文後期 出土土器 S=約1/3

第3節 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、遺構配置図に見られるようにB・C調査区より検出された。その内容は、竪穴式住居跡4軒、土坑1基、不明遺構1基である。住居跡の主軸の方向はほぼ東西を向き、4軒の住居跡に共通している。また、主柱は2本柱と4本柱のものがあり、いずれの遺構もⅢ層上面からの検出である。

204号住居跡（第17図）

平面形態は長方形を呈し、長軸3.48m、短軸2.88m、深さは約20cmを測る。主柱は4本と考えられる。竪穴中央部には炉が検出され、その周囲には硬化面が広がっている。住居跡北東部には壁溝と呼ばれる溝が掘られている。壁溝の深さは約10cmで溝の底部の幅は2~4cmである。

出土遺物 遺物量は少なく、土器の小片が6点出土している。

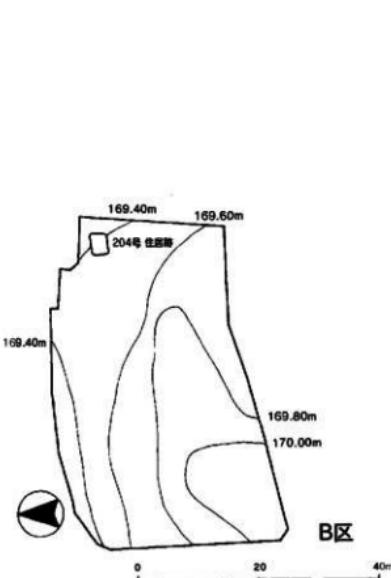
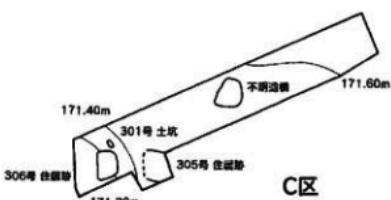
305号住居跡（第17図）

北側を302SIに切られ、また南側は調査区外に延びていることから平面形態は不明である。残存する方向の軸の長さは5.04mを測り、遺構検出面からの深さは約50cmである。住居の南端で炉が検出されている。

出土遺物 床面直上より變形土器の底部など十数点の弥生土器が出土している。

306号住居跡（第17図）

平面形態は長方形を呈し、長軸4.08m、短軸3.08m、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。主柱は長軸に沿った2本と考えられる。また、床面に炭化物が検出されており、焼失家屋の可能性がある。出土遺物 床面直上よりタキ目がのこる長脚の變形土器がほぼ完形で出土している他、石斧・磨石・台石などが出土している。



第16図 大鶴A遺跡 弥生時代遺構配置図



306号住居跡 遺物出土状況



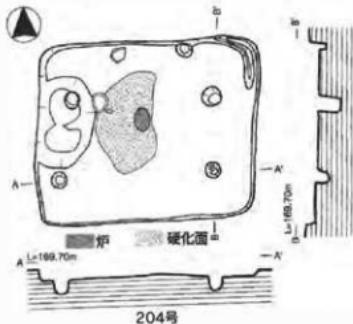
112

306号住居跡出土 豊形土器 S=約1/8

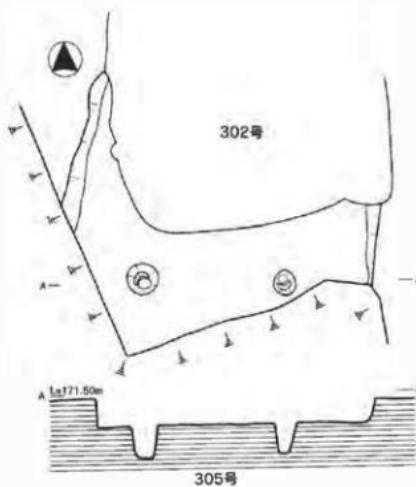


113

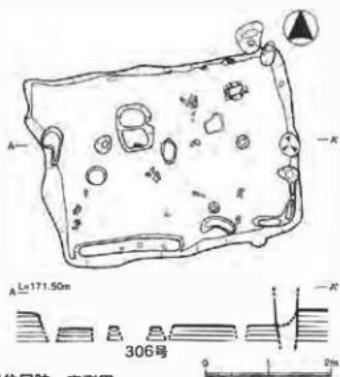
306号住居跡出土
石斧 S=約1/2



204号



305号



306号

第17図 204・305・306号住居跡 実測図

301号土坑

平面形態は楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.7mを測る。完形の壺形土器が出土している。

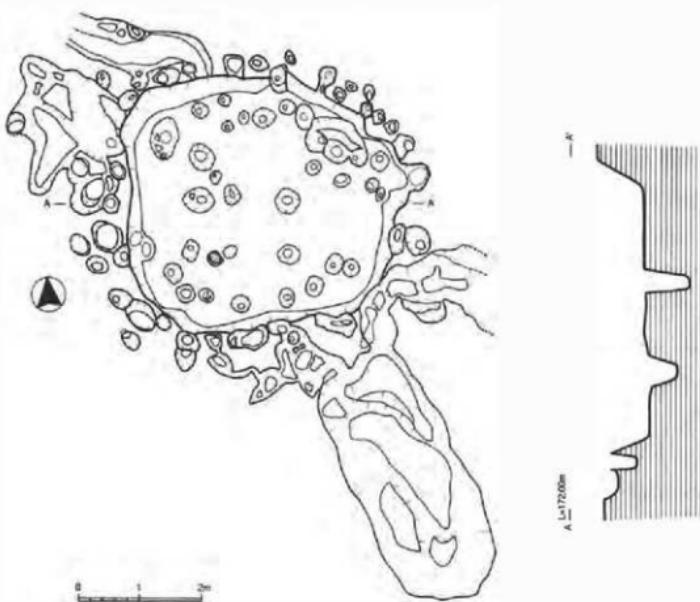
不明遺構（第18図）

平面形態が方形を呈する竪穴部の周囲に多数の柱穴が配されており、南側に楕円形の土坑がこれに続く。竪穴部からはタタキ目がのこる壺形土器の胴部片などが出土している。



114

301号土坑出土 壺形土器 S=約1/8



第18図 不明遺構 実測図

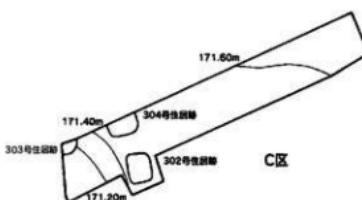
第4節 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては竪穴式住居跡6軒が検出されている。いずれもB・C調査区から見つかっており主軸はほぼ東西に向いている。

201号住居跡（第20図）

平面形態はほぼ方形を呈し、長軸3.68m、短軸3.24m、遺構検出面からの深さは平均40cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態から住居跡の可能性が高いと思われる。

出土遺物 埋土中より土師器の小片が十数点出土し、袋状鉄斧が出土している。



202号住居跡（第20図）

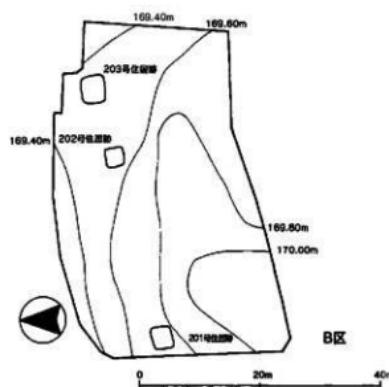
平面形態は方形を呈し、長軸2.96m、短軸2.96m、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態から住居跡の可能性が高いと思われる。

出土遺物 埋土中より壺形土器の口縁部から腹部上半にかけてが出土している。

203号住居跡（第20図）

平面形態は長方形を呈し、長軸4.48m、短軸3.92m、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態から住居跡の可能性が高いと思われる。

出土遺物 住居跡埋土の下層より土師器の小片4点が出土している。

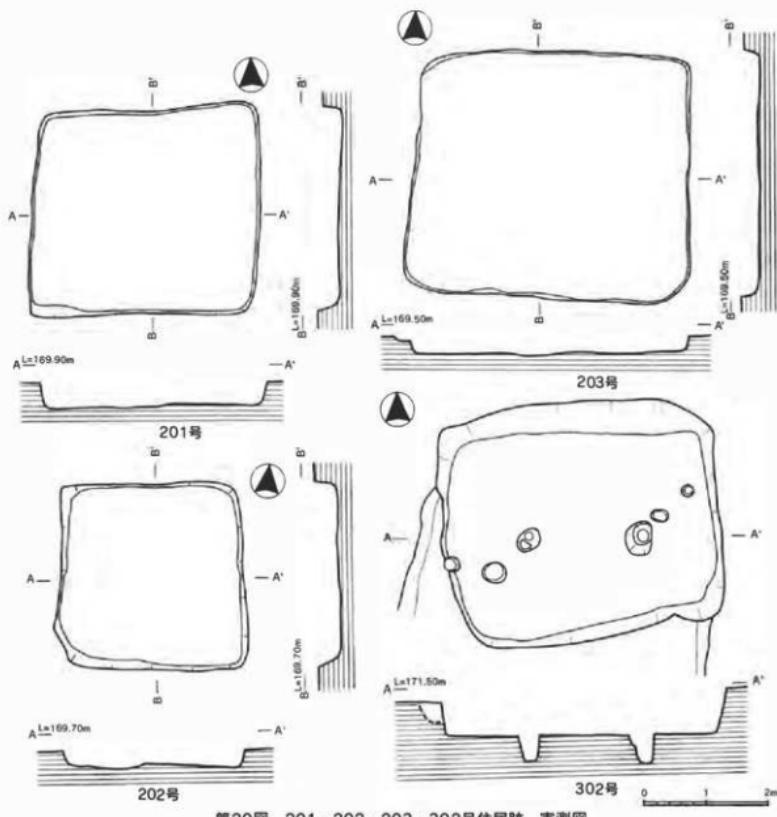


302号住居跡（第20図）

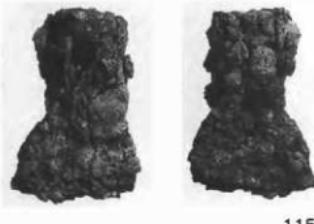
305号住居跡を切るかたちで検出されている。平面形態は方形を呈し、長軸4.84m、短軸3.80m、遺構検出面からの深さは約80cmを測る。主柱は長軸に沿った2本と考えられる。

出土遺物 住居跡埋土の下層より口縁部から腹部上半にかけての壺形土器1点のほか、壺形土器の腹部の一部などが出土している。

第19図 大鶴A遺跡 古墳時代遺構配置図



第20図 201・202・203・302号住居跡 実測図



115

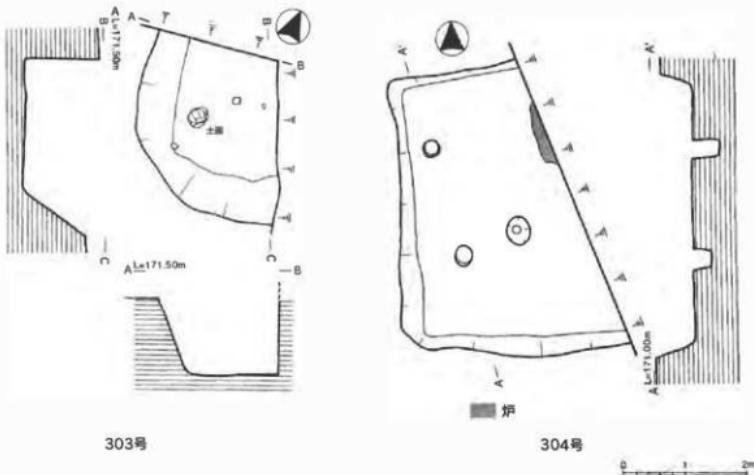


201号出土 袋状鉄片 S=約1/2



116

302号住居跡出土 变形土器 S=約1/5



第21図 303・304号住居跡 実測図

303号住居跡（第21図）

道構の北側及び東側が調査区外に延びているため、平面形態は不明である。道構棟出面からの深さは約120cmを測る。また、柱穴は検出されていない。
出土遺物 床面直上より完形の壺形土器が出土している。

304号住居跡（第21図）

住居跡東側が調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する方向の軸の長さは4.76mで道構棟出面からの深さは約50cmを測る。
住居跡東側に焼土が認められる。
出土遺物 墓土中より壺形土器の口縁部から胸部上半にかけてが出土している。



303号住居跡出土 壺形土器 S=約1/5

第5節 中世以降の遺構と遺物(第22図)

中世以降の遺構としては、A・B区より道路状遺構、溝が検出されている。

道路状遺構

B区より検出され、調査区北西から東にかけて横断している。最深部は遺構検出面より1.18m、上端の最大幅は5.66mである。また、道路面であつたと考えられる硬化面の最大幅は約70cmである。

遺物は中世の陶磁器類が出土しており、この遺構の年代の下限は中世と思われる。

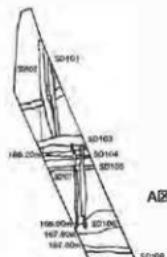
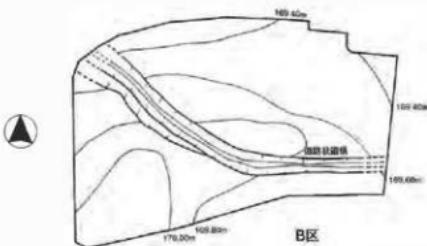
溝遺構

A区に位置し、南北方向に掘られているものと東西方向に掘られているもの、あわせて8条の溝がある。

出土遺物は少なく、近世の陶磁器類の小片が数点出土している。



A区 溝遺構 完掘状況



第22図 大鶴A遺跡 中世以降の遺構配置図

第6節 まとめ

調査の結果、大鶴A遺跡では縄文時代～中世以降の遺構、遺物が出土した。以下、時代ごとに成果をまとめたい。

縄文時代

前期～中期

【遺物】 この時代の遺構は確認されなかったものの、遺物はA・B・C各調査区より出土した。まず、前期～中期にかけての遺物はC区を中心に包含層より出土している。その中でも量的に最も多いのが曾畠式土器で、その他、溝B式土器、尾田式土器、船元式土器、溝CD式土器などが出土している。

後期の土器は若干ではあるが、A・B区より鐘ヶ崎式土器、北久根山式土器などが出土している。

弥生時代

後期

【遺構】 弥生時代の遺構は住居跡3軒、土坑1基、不明遺構1基が検出された。住居跡はいずれも長方形を呈し、2本柱と4本柱のものがある。204、306号住居跡の壁際には、浅い壁溝と呼ばれる溝があるが、いずれの住居跡にもベッド状遺構は見られない。

また、不明遺構は弥生時代後期の遺物が出土しているものの、他の住居跡などと異なり柱穴が異常に多く、また形も不定形であることなどから住居跡とは認められがたく不明遺構とした。

土坑は、壺形土器がほぼ完形で出土しており、埋納された可能性が高い。

【遺物】 A・B・C調査区の遺構の埋土、及び包含層より出土している。住居跡に伴う時期の遺物は弥生時代後期後半のもので白川水系に特有な三角断面形の口縁を持つ複合口縁壺や長脚化した脚台を持つ壺形土器などが出土している。



大鶴A遺跡出土 小型丸底壺 S=約1/2

古墳時代

【遺構】 この時代の遺構は住居跡6軒が検出された。柱穴が検出されているものは2本柱である。遺構からの遺物の出土状況は床直上より出土した303号住居跡を除いては埋土中からの出土である。その他、特に記すべき遺物としては、201号住居跡出土の袋状鉄斧で、床面近くにおいて出土している。

また、包含層から小型丸底壺(No.118)が出土している。

中世以降

【遺構】 中世以降の遺構はA・B区より検出された。このうち中世の遺構は道路状遺構で陶磁器の小片が数点出土している。溝は近世以降のものと考えられる。



大鶴A遺跡出土 石鏃 S=約1/2

第V章 上揚遺跡・前畠遺跡の調査

第1節 上揚遺跡（第23図）

上揚遺跡は大津町大字錦野に在し、立石遺跡の東側に位置する。白川南岸の沖積地に位置し、標高は120m前後で、東から西に緩やかに傾斜している。またA区とB区との距離は約500mでそれぞれの調査区は全く違う様相を見せていている。

まず、A区からは、遺構は検出されなかつたが、後期の北久根山式土器などが出土している。

B区では集石が3基検出され、押型文土器が数点出土している他、焼土が南西方向から北東方向に向かって列状に多数確認されており、そのうち調査区中央の焼土の周辺では鉄滓が検出されており、鍛冶に関する遺構があつた可能性がある。鉄製品は20点が出土している（器種不明を含む）。また、その北東部では約4メートル四方にわたって須恵器の破片が集中して出土（No124）している。（第23図参照）



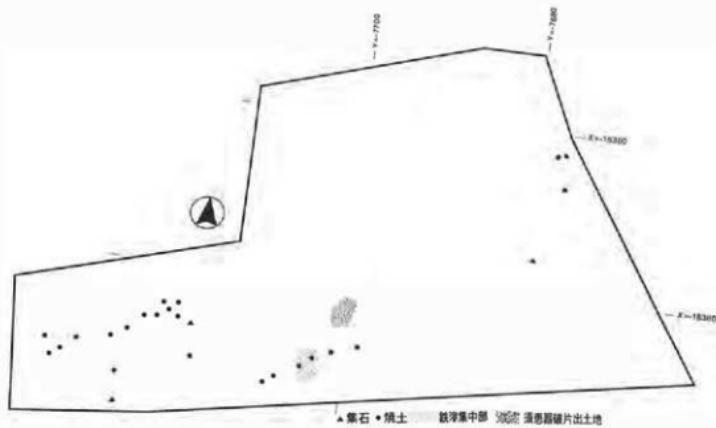
123

上揚遺跡B区出土 壺 S=約1/2



124

上揚遺跡B区出土 平瓶 S=約1/3



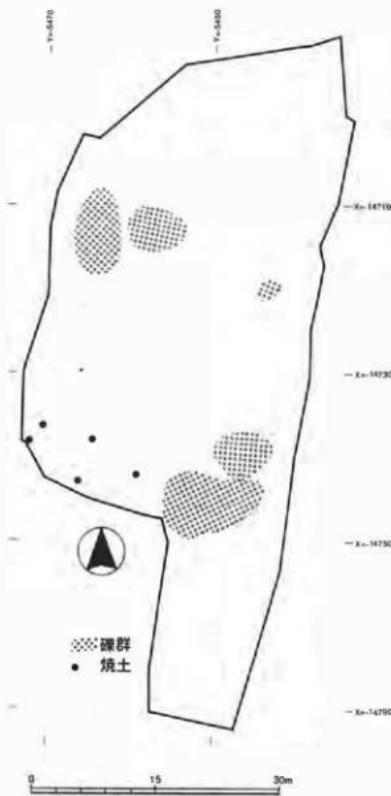
第23図 上揚遺跡B区 遺構配置図



第2節 前畠遺跡(第24図)

前畠遺跡は、大津町大字外牧に在し、現在の集落をはさんで大鶴A遺跡の西側に位置する。標高は120m前後で東から西に緩やかに傾斜し、調査の結果、礫群と焼土が検出された。礫群は、調査区内の5ヶ所で確認されているが、その成因や形成された時期などについては不明である。また、焼土は掘り込みではなく、その様相は不明である。

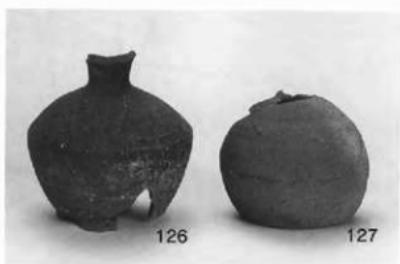
遺物は包含層より、須恵器や土師器など、奈良・平安時代のものが出土している。瓶子は2個体が一緒に出土しているが遺構は検出されていない。また、墨書き土器が1点出土しており、「東○」と判読できる。



第24図 前畠遺跡 遺構配置図



前畠遺跡出土 漆書き土器 S=約1/2



前畠遺跡出土 瓶子 S=約1/3

第VI章 総括

以上、大津町大字錦野・大字外牧の白川南岸に点在する4遺跡について、遺跡ごとの調査における成果について述べてきた。この章ではそれぞれの成果を踏まえつつ、時代ごとにまとめたい。

縄文時代

早期

立石遺跡において早期の集石10基が検出されており他、上掘遺跡からも集石3基が検出された。立石遺跡の集石の周囲、及び包含層からは山形文・梢円文・格子文の押型文土器をはじめ、条痕文土器、瘤付の無文土器、縄文土器、撫糸文土器などが出土している。出土土器のうち押型文土器が全体の約7割を占め、押型文土器のなかでは山形文土器が約6割を占める。口縁部・底部の形態、施文法などから數種類に分類できる。白川を挟んで対岸に位置する瀬田裏遺跡との関係からも、これらの遺物が今後詳しく検討されることが必要と思われる。

縄文時代

前期～中期

この時期の遺構は検出されていないが、遺物は大鶴A遺跡において包含層および新しい時代の遺構のなかより出土している。曾畠式土器を中心に、轟B式土器、轟C・D式土器、尾田式土器、瀬戸内地方で隆盛する船元式土器など、前期から中期初めにかけての土器が出土している。

前期～中期にかけては遺跡が少ない時期であることから、この時期の土器文化の交流を知る上で貴重な資料と言える。

縄文時代

後期～晩期

縄文時代後期～晩期までの遺物は上掘遺跡、大鶴A遺跡で検出された。いずれも遺構は検出されておらず出土遺物も10数点である。その中で注目されるのは近畿地方の土器である滋賀里式土器で赤色顔料によって彩色されている。

弥生時代

中期

中期の遺構は検出されていないが、遺物は立石遺跡より黒髪式土器などが多数出土している。

弥生時代

後期

後期の遺構は立石遺跡より住居跡10軒・土器窯め1基、大鶴A遺跡より住居跡3軒・土坑1基・不明遺構1基が検出されている。

なかでも、立石遺跡における土器窯めからの大量の遺物の出土、住居跡埋土からの銅鏡の出土はこの集落が地域の拠点的な集落であったことを示唆する。しかも、後期前半頃のこのような一括での出土は熊本県内でもあまり出土例がなく、これまで様相があまりつかめていなかった後期前半頃の土器形式を知る上で貴重な資料といえる。

また、立石遺跡の各調査区から出土した弥生土器のうち、黒髪式土器を含む中期～後期中頃までの

調査区	重量	調査面積	1平方メートルあたりの重量	調査区	重量	調査面積	1平方メートルあたりの重量
I区	約4kg	264.7m ²	約15g/m ²	V区	約79kg	97.7m ²	約809g/m ²
II区	約2kg	167.5m ²	約12g/m ²	VI区	約30kg	253.9m ²	約118g/m ²
III区	約44kg	176.1m ²	約250g/m ²	VII区	約4kg	59.7m ²	約67g/m ²
IV区（土器窯め含む）	約242kg	651.6m ²	約371g/m ²	VIII区	約22kg	374.9m ²	約59g/m ²
土器窯め	約150kg	1.4m ²	約107kg/m ²				

第2表 立石遺跡 弥生土器出土量(中期～後期)

土器がかなりの割合を占めており、特にⅢ、Ⅳ区そして隣接するV区においては大量に出土している。(第2表参照)これらのことから、検出された遺構の時期(後期後半)以前にも同様の場所において人々の生活が営まれていた可能性が高いと言える。

古墳時代

古墳時代の遺構としては、大鶴A遺跡より竪穴式住居跡6軒が検出されている。当初これらの住居跡は弥生時代の遺構と考えられていたが、整理作業の結果、古墳時代の土師器が出土していることが確認された。これらの遺物から住居は5世紀初頭頃に形成されていたものと考えられ、弥生時代後期後半の住居跡と同じ土地に住居を営んでいることから、弥生時代から古墳時代にかけての集落が立地のうえで差違がないことが伺える。

また、上掲遺跡からは塵や短経壺などの須恵器の破片が出土している。

奈良・平安時代

この時期の遺構・遺物は上掲遺跡・前畠遺跡において検出されている。いずれの遺跡からも方形や円形の焼土が検出され、また上掲遺跡においては周囲よりスラグなどが出土していることから鍛冶関連の遺構の可能性が考えられる。遺物は土師器や須恵器が出土している。

中世以降

中世～近世にかけての遺構としては大鶴A遺跡より道路状遺構、溝などが検出されている。遺物に乏しく、様相はつかめていないが、道路状遺構は地形に沿って北西方向から南東方向に延びる。

第3表 出土遺物一覧 (No.は遺物の横に付したもの指す)

遺物No.	遺物内容	出土地点	発小率	頁
1	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/3	12
2	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 9号集石	S=約1/3	12
3	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 5号集石	S=約1/3	12
4	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/3	12
5	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/3	12
6	押型文土器(横内文)	立石遺跡 VI区 4号集石	S=約1/3	12
7	押型文土器(横内文)	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/3	12
8	無文土器	立石遺跡 VI区 9号集石 包含層一括 接合	S=約1/3	12
9	無文土器	立石遺跡 VI区 7号集石、9号集石 接合	S=約1/3	12
10	無痕文土器	立石遺跡 VI区 4号集石	S=約1/3	12
11	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 7号集石	S=約1/3	12
12	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 4号集石	S=約1/3	12
13	押型文土器(山形文)	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/3	12
14	菱形土器	立石遺跡 III区 301号住居跡	S=約1/8	14
15	菱形土器	立石遺跡 III区 301号住居跡	S=約1/8	14
16	銅鑼	立石遺跡 III区 304号住居跡	原寸	15
17	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	18
18	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め+405号住居跡 下層 接合	S=約1/5	18
19	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	19
20	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	19
21	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	19
22	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め+405号住居跡 下層 接合	S=約1/5	19
23	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	19
24	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	19
25	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	20
26	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	20
27	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め+405号住居跡 床 接合	S=約1/3	20
28	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め+V区南 接合	S=約1/3	21
29	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	21
30	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	21
31	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	21
32	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	21
33	高坏	立石遺跡 IV区 土器混め+405号住居跡 ベ 接合	S=約1/3	22
34	器台	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	22
35	器台	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	22
36	器台	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	22
37	器台	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	22
38	器台	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/3	22
39	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	23
40	菱形土器	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/5	23
41	脚台付壺の底部	立石遺跡 IV区 土器混め	スケールは不統一	23
42	磨石	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/2	23
43	磨石	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/2	23
44	石斧	立石遺跡 IV区 土器混め	S=約1/2	23
45	石錐	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/2	26
46	石錐	立石遺跡 VI区 包含層一括	S=約1/2	26
47	石錐	立石遺跡 VI区 304号住居跡	S=約1/2	26
48	石錐	立石遺跡 VI区 4号集石	S=約1/2	26

49	石器	立石遺跡	VI区	包含層一括	S=約1/2	26
50	石器	立石遺跡	IV区	包含層一括	S=約1/2	26
51	石器	立石遺跡		包含層一括	S=約1/2	26
52	石器	立石遺跡	VI区	包含層一括	S=約1/2	26
53	石器	立石遺跡	IV区	405号住居跡	S=約1/2	26
54	石器	立石遺跡	IV区	包含層一括	S=約1/2	26
55	石器	立石遺跡	IV区	3号集石	S=約1/2	26
56	石器	立石遺跡	IV区	301号住居跡	S=約1/2	26
57	石器	立石遺跡	IV区	405号住居跡	S=約1/2	26
58	石斧	立石遺跡	VI区	包含層一括	S=約1/2	26
59	石斧	立石遺跡	V区	包含層一括	S=約1/2	26
60	石斧	立石遺跡		包含層一括	S=約1/2	26
61	石器	立石遺跡	V区	包含層一括	S=約1/2	27
62	石器	立石遺跡	III区	304号住居跡	S=約1/2	27
63	石器	立石遺跡	VI区	包含層一括	S=約1/2	27
64	石器	立石遺跡	V区	包含層一括	S=約1/2	27
65	石包丁	立石遺跡	III区	304号住居跡	S=約1/2	27
66	有溝石器	立石遺跡	IV区	406、407号住居跡 一括	S=約1/2	27
67	砾石	立石遺跡	IV区	包含層一括	S=約1/2	27
68	環状石斧	立石遺跡		包含層一括	S=約1/2	27
69	環状石斧	立石遺跡	V区	包含層一括	S=約1/2	27
70	手鍤(鉄器)	立石遺跡	IV区	405号住居跡 中層	S=約1/2	28
71	手鍤(鉄器)	立石遺跡	IV区	包含層一括	S=約1/2	28
72	鎗(鉄器)	立石遺跡	III区	304号住居跡	S=約1/2	28
73	鎗(鉄器)	立石遺跡	III区	301号住居跡	S=約1/2	28
74	鎗(鉄器)	立石遺跡	IV区	406号住居跡 床面	S=約1/2	28
75	鎗(鉄器)	立石遺跡	IV区	405号住居跡	S=約1/2	28
76	鎗(鉄器)	立石遺跡	IV区	405号住居跡	S=約1/2	28
77	鎗(鉄器)	立石遺跡	III区	406号住居跡 下層	S=約1/2	28
78	鉢形土器	立石遺跡	V区	包含層一括	S=約1/4	28
79	壺形土器	立石遺跡	I区	包含層一括	S=約1/4	28
80	壺形土器	立石遺跡	I区	包含層一括	S=約1/4	28
81	壺B式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
82	壺B式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
83	曾煙式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括+306号住居跡 上層 接合	S=約1/4	30
84	曾煙式土器	大鶴A遺跡	C区	305号住居跡	S=約1/4	30
85	曾煙式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
86	曾煙式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
87	曾煙式土器	大鶴A遺跡	C区	306号住居跡	S=約1/4	30
88	曾煙式土器	大鶴A遺跡	C区	306号住居跡	S=約1/4	30
89	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
90	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
91	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
92	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
93	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
94	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	不明遺構+包含層一括 接合	S=約1/4	30
95	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	不明遺構	S=約1/4	30
96	船元式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
97	尾田式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
98	尾田式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
99	尾田式土器	大鶴A遺跡	C区	306号住居跡	S=約1/4	30
100	尾田式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30

101	尾田式土器	大館A遺跡 C区	包含層一括	S=約1/4	30
102	尾田式土器	大館A遺跡 C区	301号住居跡+包含層一括 接合	S=約1/4	30
103	形式不明土器	大館A遺跡 C区	302号住居跡	S=約1/4	30
104	形式不明土器	大館A遺跡 C区	201号住居跡	S=約1/4	30
105	圓CD式土器	大館A遺跡 C区	包含層一括	S=約1/4	30
106	圓CD式土器	大館A遺跡 C区	包含層一括	S=約1/4	30
107	北久板山式土器	大館A遺跡 A区	包含層一括	S=約1/3	30
108	北久板山式土器	大館A遺跡 B区	道路状遺構	S=約1/3	30
109	鐘ヶ崎式土器	大館A遺跡 B区	包含層一括	S=約1/3	30
110	滋賀里式土器	大館A遺跡 A区	包含層一括	S=約1/3	30
111	滋賀里式土器	大館A遺跡 A区	包含層一括	S=約1/3	30
112	壺形土器	大館A遺跡 C区	包含層一括+306号住居跡 接合	S=約1/8	32
113	石斧	大館A遺跡 C区	306号住居跡	S=約1/2	32
114	壺形土器	大館A遺跡 C区	301号土坑	S=約1/8	33
115	袋状鉢片	大館A遺跡 B区	201号住居跡	S=約1/2	35
116	壺形土器	大館A遺跡 C区	302号住居跡	S=約1/5	35
117	壺形土器	大館A遺跡 C区	303号住居跡	S=約1/5	36
118	小型丸底壺	大館A遺跡 包含層一括		S=約1/2	38
119	石錐	大館A遺跡 C区	不明遺構	S=約1/2	38
120	石錐	大館A遺跡 C区	306号住居跡	S=約1/2	38
121	石錐	大館A遺跡 C区	不明遺構	S=約1/2	38
122	石錐	大館A遺跡 表探		S=約1/2	38
123	塵	上掲遺跡 B区	包含層一括	S=約1/2	39
124	平瓶	上掲遺跡 B区	包含層一括	S=約1/3	39
125	巖唇土器	前掲遺跡	包含層一括	S=約1/2	40
126	瓶子	前掲遺跡	包含層一括	S=約1/3	40
127	瓶子	前掲遺跡	包含層一括	S=約1/3	40

あとがき

今回の報告では編集者の未熟さに加え時間的な制約が重なり、各遺跡の概要を述べるに留まったとの感は拭えない。しかしながら今回の報告を行うことにより「埋蔵文化財」に携わる者の一人として、その持つ意義を改めて感じることはできた。4遺跡はそれぞれに特異な遺跡であり、最小限の遺物の掲載であることは編集者として残念ではあったが、小さな土器片のひとつひとつまでに生命を吹き込む作業は充実した時間であり、その中で本報告書が刊行に至ることができたのは、いつも笑顔を絶やさず整理作業に携わって頂いた方々のご尽力の賜物と思う。最後になるが、ここに記すことによって感謝の意を表したい。

吉本 清子 山野 孝子 尾方 マサミ 浦田 和恵
緒方 千代子 可児 真由実 乗富 純子 村田百合子

(戸田 記)

報告書抄録

ふりがな	たていしいせき・おおつるえーいせき・かみあげいせき・まえはたいせき
書名	立石遺跡・大鶴A遺跡・上掘遺跡・前畠遺跡
副書名	担い手育成基盤整備事業
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第176集
編集者名	戸田清恵
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8570 熊本市水前寺6丁目18番1号
発行年月日	1999年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
立石遺跡	菊池郡大津町錦野	43403	43403080	199312~199403	2050m ²	担い手 育成基盤 整備事業
大鶴A遺跡	菊池郡大津町外牧	43403	43403081	199509~199602	2420m ²	
上掘遺跡	菊池郡大津町錦野	43403	43403080	199410~199503	3270m ²	
前畠遺跡	菊池郡大津町外牧	43403	43403083	199504~199509	2000m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
立石遺跡	集落	縄文時代早期	集石10基	押型文・無文・条痕文土器	
		弥生時代後期	竪穴式住居10軒	弥生土器、銅鏡、鉄器	住居跡埋土中より銅鏡が出土
			土器窯1基	弥生土器、石器	130個体にのぼる土器が出土。 弥生時代後期前半~中期にかけてのセット関係を知る良好な資料
大鶴A遺跡	集落	弥生時代後期	竪穴式住居3軒 土坑1基	弥生土器、石器、鉄器	弥生時代後期終末期の住居跡
		古墳時代前期	竪穴式住居6軒	古式土師器	
		中世	道路状遺構1条		
上掘遺跡		古墳~奈良・平安時代		須恵器(縁・平縁他) 土師器	鐵津が集中して出土。鍛冶関連の遺構か。
前畠遺跡		奈良・平安時代		須恵器 土師器	

熊本県文化財調査報告 第176集

立石遺跡 大鶴A遺跡
上揚遺跡 前畠遺跡

平成11年3月31日

監修 熊本県教育委員会

発行 平862-5570 熊本市水前寺町1丁目18番1号

印刷 株式会社西川印刷

平865-0136 五名郡志摩町江田4345番地1

10 教委 教文
(2) 007

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 176 集を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用
してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図
書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用
方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：立石遺跡 大鶴 A 遺跡 上揚遺跡 前畠遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL : <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日